

メダカの飼育と管理

【 小学校 5 年 「動物の誕生」 】
教室でメダカを飼育しよう。

1 メダカの種類

メダカは黒っぽい野生型の「メダカ」と橙色に変化した品種の「ヒメダカ」がいる。野生型のメダカは 1999 年に絶滅危惧 2 類に指定されている。クロメダカと呼ばれることもあるが、これは俗称である。



メダカ



ヒメダカ

日本に生息する野生型のメダカは分類上同一種である。しかし、地理的に隔離されやすく、地域によって尾びれの形状などに変異があり、北日本集団と南日本集団の 2 つに大きく分けられることがある。また、南日本集団を更に小集団に分ける場合もある。富山県に生息する野生型のメダカは、北日本集団に属しているが、ペットショップで販売されるメダカは、南日本集団のものが多く、そのメダカを安易に放流すると、遺伝的な多様性を乱すことにつながる。メダカを放流する場合は、元の水源に戻すことが原則である。

2 メダカ・ヒメダカの購入

メダカやヒメダカは観賞用、熱帯魚の生き餌用などとしてペットショップで販売されているので、その年産卵しそうな大きめの個体を購入する。飼育途中で死んでしまうことも考慮し、少し多めに、雄と雌を混ぜて購入する。体に白い斑点のある個体は病気にかかっているので、購入する際は注意する。

3 飼育と管理方法

(1) 飼育の準備

- ・水槽 30×16×高さ 25 cm のもので 10 匹程度が目安となる。
- ・水道水は一晩くみ置いたものを用い、オオカナダモなどの水草を入れると、光合成により酸素を放出するので、メダカの数が増えても循環ポンプを入れなくてすむ。
- ・メダカを入れた水と水槽の水の温度がほぼ同じになるよう、半日ほど同じ部屋に置いてから水槽に移す。



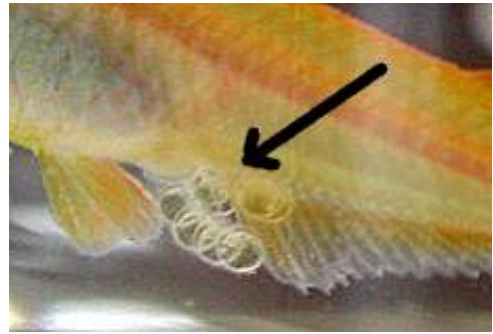
(2) 餌やりと水の取り替え

- ・イトミミズやマジシニコなどもよいが、配合した餌がペットショップなどで売っている。幼魚には専用の餌を与えるが、生まれてから数日間はまだ消化できないので餌を与えてはいけない。
- ・餌やりは午前中にし、食べ残さない程度に与える。
- ・水替えは週 1 回ほど行う。1/3～1/2 程度の水を入れ替え、底のごみは取り除く。
- ・インドヒラマキガイなどの巻き貝を入れておくと、餌の残りを食べて掃除してくれるので水が汚れない。



(3) 採卵

- 水温が 23℃以上になる 6 月頃から、徐々に産卵を始める。早朝に産卵し、産卵後 1 時間以上も生殖孔に卵を付着させている。そのまま放置すると卵は食べられてしまうので、毎朝確認する。
- 採卵は、卵を付けたメダカを網などですくい、卵を筆の毛にくっつけたり、大きめのピペットで吸ったりして取る。
- 水槽の水を入れたチャック付ポリ袋に日付を書き、卵を入れて水槽の側面にはりつけておく。十分な数の卵があれば、チャック付ポリ袋 に入れ、一人一人が携帯して随時観察することもできる。
- 水温が 20℃以上あれば発生は進む。水温とふ化日数の関係は、以下を目安にするとよい。



水温 10℃……活動停止

水温 19℃……19～20 日間でふ化

水温 24℃……10～11 日間でふ化

水温 28～30℃……8～9 日間でふ化